



INAX MUSEUMS

INAXライブミュージアム

NEWS LETTER

特集 ^{いざな}バラの誘い

vol. 14 | 季刊 2010 冬



表紙写真

ライブミュージアムの夕暮れ。外は肌寒くなりましたが、陶楽工場の窓の光はあたたかそうです。来館者がものづくり体験を終えて帰られた後、中ではスタッフが後片付けや明日の準備。穏やかな時間が流れています。(2009.11.25)

撮影：加藤弘一

[特集] バラの誘い

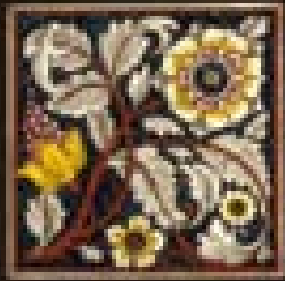
- 02 バラをめぐる物語
- 04 東西の出会いが広げたバラの魅力 上田 善弘
産業革命を経て身近になった「憧れのバラ」
尾之内明美
- 06 バラのタイル

LIVE REPORT

- 07 開催報告
観察会 南知多・緑のツアー —ウバメガシの林と谷戸を歩く
フォトコンテスト 作品募集&作品展
常滑フィールド・トリップ2009 live & performance
光るどろだんご全国大会2009
企画展 タイルに咲いた憧れの花・バラ
—19世紀ヴィクトリアンタイルから

LIVE SCHEDULE

- 09 これからの催し



バラの誘い

「特集」

いぎな



芳醇な香り、気品ある姿——。バラは古くから人々を惹きつけ、ときには惑わせるほどに魅了してきました。19世紀ヴィクトリア時代のイギリスは、その強大な国力を背景に、バラがまさに百花繚乱した時代。同時にヴィクトリアンタイルの全盛期、タイルのモチーフにも盛んにバラが取り入れられました。その背景には、どんな物語があったのでしょうか。

常滑から 13

常滑で起きていること



「常滑フィールド・トリップ2009」より

古い街並みの常滑はそれだけでもおもしろい。明治から昭和のやきもの産業の名残りがいたるところにあり、歴史の香りが濃い。若い人たちが集まって、10月10日ー18日「常滑フィールド・トリップ2009」が開催された。長く空き家になった古い家屋や工房を借りて20数人がアート作品を展示し、20人近くの人々がパフォーマンスを展開した。古い家屋に住み込んだ人、常滑に通った人など、合計60人ほどの若いアーティストが半年にわたって常滑に入った。異口同音に「常滑はおもしろい」と言う。デジタル世代といえる人たちがだが、30〜40年前の狭い、古い家屋での不便な暮らしを喜び、町の高齢者や子どもたちとの交流を楽しんだ。

今、古い街、常滑を訪れる人は多い。古いものこそ価値があるという「時代の風」を感じるの、私だけではない。映画「20世紀少年」の堤幸彦監督も常滑を気に入った一人である。

辻孝一郎(館長)

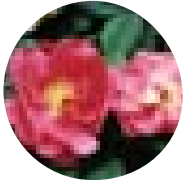
※ INAXが生まれ育った常滑のやきものや土に関わる人、風景、できごとなどを、INAXライブミュージアムのスタッフが伝えます。

Roses バラをめぐる物語

バラの登場

人類が初めてバラを語ったのは、『ギルガメッシュ叙事詩』。紀元前2000年頃、シュメール人が築いた古代メソポタミア文明の英雄、ギルガメッシュをめぐる物語です。この中で「バラは永遠の命」とうたわれています。

ギリシャ・ローマ時代、バラは美の女神アフロディーテや、愛の女神ヴィーナスとともに語られ、王侯貴族に愛され、栽培も進んで香油、医薬品などに利用されます。古代エジプトの女王クレオパトラはバラの花を敷き詰めてアントニウスを歓待し、暴君として知られるローマ皇帝ネロは「バラ狂い」で世間を騒がせました。バラの美しさと香りは、この上ない贅沢のしるし。そうした風



古代ギリシャ・ローマの人々が愛した濃厚な香りを持つオールド・ローズ。

ロサ・ダマスセナ
(*Rosa damascena*)
ロサ・ガリカ・オフィシナリス
(*Rosa gallica* var. *officinalis*)

潮が中世ヨーロッパで一時、「バラは人々を惑わすもの」としてタブー視されますが、ルネサンスによって再び愛される憧れの花に。15世紀、メディチ家支配下のイタリア、フィレンツェで活躍したポッティチェリは、「ヴィーナスの誕生」で八重咲きのバラを空に舞いあげ、幸福感を表しています。



「ヴィーナスの誕生」ポッティチェリ

Episode 2 野辺に咲いた 素朴なバラ

日本でバラが最初に登場した書物は、『万葉集』。道のへの茨の末に這は豆のからまる君を別れか行かむ茨うまじは「いばら」の古語で、日本古来のノイバラ。野辺に咲く素朴な白い花です。一方、藤原定家が残した日記『明月記』に登場する「長春花」は、中国伝来のコウシンバラとされ、この時代、すでに中国のバラが日本で栽培されていたことを物語っています。



日本のノイバラ

日本で本格的にバラが愛好されるようになったのは、西洋から輸入されたバラが園芸品種として栽培されるようになった明治期から。楚々とした自然を愛した日本人にとって、バラは眩しすぎる花だったのかもしれない。

Episode 3 和睦の証し チューダー・ローズ

イギリスで1455年〜85年の約30年間、王位継承をめぐるランカスター家とヨーク家が争った「バラ戦争」。ランカスター家は赤いバラ、ヨーク家は白いバラを紋章としたことから、そう呼ばれて



チューダー・ローズの紋章
(ハンプトンコートのステンドグラスの文様)

もイギリス王室のエンブレムになっています。そしてイギリスの国花はもちろん、バラ。美しい人々をたどって「English Rose」とも言うほど、イギリス人の生活に根ざした特別な存在として、人々に愛されています。

結局戦いは、ランカスター派のヘンリー・チューダーが王位を継ぎ、ヨーク家から妻を迎えて終結。こうして始まったチューダー王朝が、新しい紋章としたのが「チューダー・ローズ」。赤バラと白バラを組み合わせたデザインは、まさに和睦のシンボルです。チューダー・ローズは、現在でもイギリス王室のエンブレムになっています。そしてイギリスの国花はもちろん、バラ。美しい人々をたどって「English Rose」とも言うほど、イギリス人の生活に根ざした特別な存在として、人々に愛されています。

Episode 4

孤独な皇后が 愛した花

18世紀半ば、カリブ海の島に生まれた貴族の娘が、バラの歴史を大きく変える役割を果たしました。彼女の名前はマリー・ジョセフ・ローズ。夫となったフランス皇帝ナポレオン1世の頼みで、ジョセフィーヌと名乗るようになった、その人です。

1799年、パリ郊外のマルメゾン館を購入したジョセフィーヌは、広い庭に世界中から植物を集め、中でもバラにこだわり、新品種の噂を聞けば苗を取り寄せたといまです。当時珍しかった中国原産のバラも数種、庭に植えられ、やがて庭園のバラは250種類にのぼり、優秀な園芸家を抱えて品種改良の研究も始めました。さらに収集したバラのコレクションを、当時評判の植物画家ルドウーテに描かせ、彼女の死後出版され



『バラ図譜』(Les Roses)
ビエール=ジョゼフ・ルドウーテ著

写真は保存状態の良い当時の実物初版本をもとに、2008年に実物大で復刻されたもの。表紙にはバラの花輪、中には169のバラが描かれている。(出版:河出書房新社)

た「バラ図譜」は、当時のバラを知る貴重な資料として、後世高く評価されています。晩年、ナポレオンに離婚を言い渡されマルメゾンで過ごしたジョセフィーヌ。彼女のバラへの思いは、バラ園芸の礎となつて多くの人々に受け継がれています。

Episode 5

亡き人を偲ぶバラ

バラには、世界中のさまざまな女性の名前がつけられています。プリンセス・オブ・ウェールズは、世界的なバラの育種家である英国のハークネス兄弟が1997年に世に送り出したバラ。売上の一部を、当時ダイアナ妃が活動していた英国肺病基金に寄付することを提案、英国女王により「プリンセス・オブ・ウェールズ」と名付けることを許されました。その年の8月、ダイアナ妃は亡くなり、葬儀では、友人の歌手エルトン・ジョンが「さよなら、英国のバラよ」と歌って早すぎる死を悼みました。



ダイアナ妃に捧げられた
プリンセス オブ ウェールズ (Princess of Wales)。

一方、「アンネの日記」の作者、ユダヤ人少女アンネ・フランクを偲んでつくられたのが「アンネの形見のバラ」。アンネの父、オットー・フランク氏の許しを得て命名され、オットー氏と交流のあった人々の手で、平和を願ったアンネの思いを受け継ぐように世界各地で花を咲かせています。



アンネの形見のバラ

は

るか紀元前に始まった人とバラとののかかわり。陸路を行き、海を超えて世界に広がったその歴史の中で、自然による交雑、人間の手による交配が繰り返されてきました。

バラはバラ科バラ属(Rosa)に属する植物で北半球にのみ分布し、世界中に1500〜2000種ほどの野生種があると言われます。特に中国の西南部の四川省、雲南省と、ヒマラヤから西アジアに野生種が多く、これらの地域はバラの起源地と考えられています。

中国のバラは栽培の過程で「四季咲き」の特性を獲得します。真ん中が高い芯のようにせりあがり、そこから一枚、一枚花開いていく「高芯」、開いた花びらの縁が裏に反って剣のように見える「剣弁」、この「高芯剣弁」の花形と、独特の香り——後に英国人はこの中にさわやかな紅茶の香りを見出し「ティーの香り」と呼ぶようになるのですが——。18世紀以降の植民地開拓で人々の目がアジアに向かうなか、こうした特質を持つ中国バラが、商人やプラントハンターの手によりイギリスに渡り、ヨーロッパ古来のバラと交雑されて「ティーローズ」などの新しい品種を生み出していきます。

東西の出会いが 広げた バラの魅力

上田 善弘

岐阜県立国際園芸アカデミー 教授・農学博士



ラ・フランス 撮影：上田善弘

で育成された強く耐寒性のある種に、中国バラを導入してきた四季咲きで高芯剣弁の花形とティーの芳香を持った品種を交配した「ラ・フランス」がつけられました。完全なる四季咲き品種の誕生。「ハイブリット・ティー・ローズ」第一号の作出により現代バラの時代が幕を開けました。これを機に、1867年以前に育成されていた系統を「オールド・ローズ」、以降に育成された系統を「モダン・ローズ」と呼びます。バラという西洋のものというイメージがあると思いますが、伝統的に見れば大半が東洋のもの。西洋と東洋のバラが出会うことで、形も色も香りも洗練されたバラが誕生したので。

洋のものというイメージがあると思いますが、伝統的に見れば大半が東洋のもの。西洋と東洋のバラが出会うことで、形も色も香りも洗練されたバラが誕生したので。

える」という意味。バラの高芯剣弁の特徴を持っているので、葉を見なければバラかなと思ってしまうかもしれません。しかしこの花は、やはりバラを超えることはできません。香りがまったくなくないのです。形、香り、色——花の三大要素がすべて揃って人を魅了する、それがバラであり、長い年月をかけて一重のバラから進化し続けた花です。

その豊かな世界を、暮らしの中で楽しみたいものです。(談)

うえだ よしひろ

大阪府立大学大学院農学研究科修士課程修了。千葉大学園芸学部助教を経て現職。長年に渡りバラの分類、遺伝育種に関する研究に取り組む。専門は、花卉園芸学、植物育種学、園芸文化論など。著書に『バラ大百科』NHK出版、『園芸学』文永堂出版など多数。

バ

ラ好きの方は誰でもそうだと思うのですが、私は「バラ」という単語に敏感で、見たり聞いたりすると反応してしまう。あるとき、バラは古代から中近東で自生していて、それを十字軍がヨーロッパに持ち帰った、あるいはイスラム教徒がスペインに持って行ったということを知って、「アレック?どこかで聞いた話だな」と思いました。そこでいろいろ調べていくうちに、バラとタイトルは興味深い共通点があることに気がついたのです。

タイトルも古代のオリエントで発祥し、イスラム地域で熟成されて、宗教とともにイペリア半島に入り、地中海を越えてイタリアからヨーロッパに広がっていきましました。また中国や日本でもつくられたやきものが大航海時代にヨーロッパにもたらされて大きな影響を与えたということも、ヨーロッパのバラに中国や日本のバラが導入されて、多様で健康な現代バラが作り出されたのと同じく似ています。

19世紀ヴィクトリア女王の時代(1837-1901)は、産業革命を経て、イギリスの経済的繁栄が最高潮に達した時代です。富を築いた工場経営者など中産階級の人々は、その証しとして「豊かな住まい」を求めました。職任分離が進み、

産業革命を経て 身近になった 「憧れのバラ」

尾之内 明美

INAXライブミュージアム 企画・広報担当



ヴィクトリアンスタイル 19世紀イギリス

人々は郊外に戸建ての家を建てるようになり、一大建築ブームが起きます。

タイトルと同様、オランダからイギリスにもたらされたといわれる園芸もこの頃、中産階級の間で盛んになります。それまでは、食べる目的以外の植物を育てるといいうのは、裕福な上流階級だけの貴族的な楽しみだったのです。それが、中産階級にも手が出せるようになった。豊かさを謳歌するために、人々は「憧れのバラ」を

身近に育てるようになった。たぶん過剰な反応をしたと思うのです。さらに、バラは開花のシーズンが短いので、バラの美しさをずっと自分のものにしておきたいと考えた人たちは、工芸やインテリアのデザインに取り入れて自分の家を装飾していたのだと思います。

20世紀初頭に花開いたアールヌーボーの時代には、エミール・ガレやドーム兄弟のガラス作品にバラの花を見ることでできます。「近代デザインの父」と言われ、アーツ・アンド・クラフツ運動を繰り広げたウィリアム・モリスの最初の壁紙とされるものには、ピンクのバラの花枝が鳥とともにデザインされています。当時、新しい建材として広く使われるようになった「装飾タイトル」にも、たくさんのバラの花が咲いています。(談)

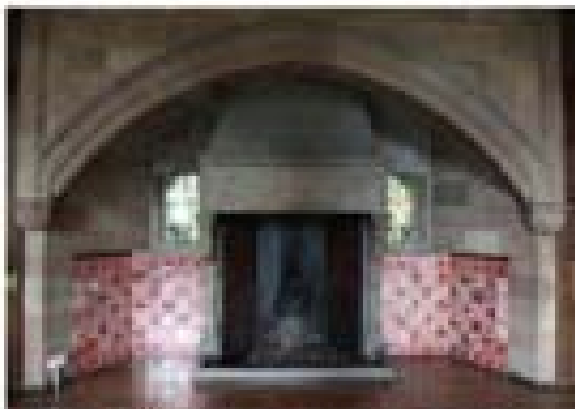
ウィリアム・モリス
バラをデザインした壁紙。

画像提供 / マナトレーディング株式会社

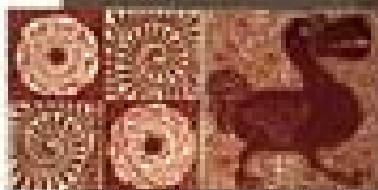
「バラのタイル」

香るような優美なバラを身近に——。こんな願いから、さまざまなデザインされたバラのタイルがつけられ、建築の床や暖炉の周り、開口部のふちどり、壁などを飾りました。産業革命後、世界最強の大英帝国がその名をとりかせていたヴィクトリア時代。写実派、ゴシックリバイバル、アールヌーボー、アーツ・アンド・クラフツなど、時代が生み出したさまざまな表現方法に対応でき

る、多彩なタイル制作の技法が確立してきたのもこの時代です。写実的なバラは印刷技術を転用して開発された「転写」の技術で、デフォルメされたデザインのバラは陰影をつくる「レリーフ」や曲線のラインを強調する「チューブライニング」で、床に敷くバラは「象嵌」で。今では不可能なほど高度な技術で、完成度の高い美しいバラのタイルが量産されました。



レベッカ・ダービー邸
(イギリス・シュロップ州)
の食堂の暖炉。★



アーツ&クラフツ運動を
実践したド・モーガンの
ラスター彩タイルを張って
装飾した。★



濃淡のグラデーションが美しく、
花卉と葉の中央が光って見える。
レリーフとチューブライニングの
技法を併用。



バラの花と棘を表現している
床用の象嵌タイル。
MINTON&Co. 製



筆を使って丁寧にぼかしを入れた地に、
バラの花飾りをデザイン。
レリーフとチューブライニングの技法を併用。



多色刷りの転写技法で描かれた
バラの花とローズヒップ。
W.T.COPELAND 製